

宮坂建設が協賛「美術館」

札幌地下鉄に子供の絵



園児と一緒にテープカットする宮坂社長（後列右から2人目）



地下鉄の車両内に飾られた園児たちの絵

【札幌】宮坂建設工業（本社帯広、宮坂寿文社長）が協賛する「地下鉄こども美術館」が、札幌市営地下鉄東西線の車両で開かれています。

同市営地下鉄の1編成7両の車内内の広告、中づりスペースに、同市内5幼稚園の園児の絵464枚を展示している。

同市営地下鉄の1編成全体に児童の絵を飾るのは初めて。帯広育ちの漫画家いがらしゆみこさんからつくる市民団体「こころの公園製作委員会」（村井隆一委員長）が、乗客に幼児の絵を見て夢を思い出してもらおうと企画。宮坂建設工業が地域貢献を目的に広告費用など約200万円を負担した。16日に始まり、29日までの2週間、1日おおむね9往復する。

15日に東西線南郷7丁目

駅ホームで行われたセレモニーには、いがらしさんや園児、保護者らが出席。秋元克広札幌市長が「子供たちの思い出になり、夢を語るの場になれば」とあいさつし、宮坂社長に感謝状を手渡した。

秋元市長、宮坂社長、絵を出展した幼稚園の園児代表がテープカットした。

（原山知寿子）

発車オーライ「地下鉄こども美術館」

札幌の地下鉄が、幼児の絵の美術館に。楽しい夢を乗せた車両が十六日から運行を始め、利用客に好評だ。

「大人のこころに、遊び場を」と、異業種の有志で組織する、こころの公園製作委員会（村井隆委員長）が企画した初の「地下鉄こども美術館」。市営地下鉄東西線の編成車両の広告スペースを、市内の幼稚園児四百六十四人の絵で埋め、二週間にわたり利用客を楽しませる趣向だ。

札幌に支店を構える宮坂建設工業（帯広）の宮坂寿文社長も委員として企画に参加。会社ぐるみで夢のイベントを応援しており、今回の一編成丸ごと（Ａライン）のや、漫画家いがらしゆみこさ



地下鉄ホームでテープカット



園児と一緒に絵を見て回る宮坂社長（右）

届け夢と感動―「地域に恩返し」

札幌市在住の十六人が、昨年からの準備を重ね実現した地下鉄こども美術館で「子どもたちの傑作を一人でも多くご覧いただき、感動してもらいたい」（村井委員長）と期待する。

宮坂社長らがテープカット。吊百六十八枚、額面二百九十

六枚で、いずれも子どもたちが夢などを素直に表現した。乗降口横の外側にはイベント告知のステッカーフィルムも貼られた。

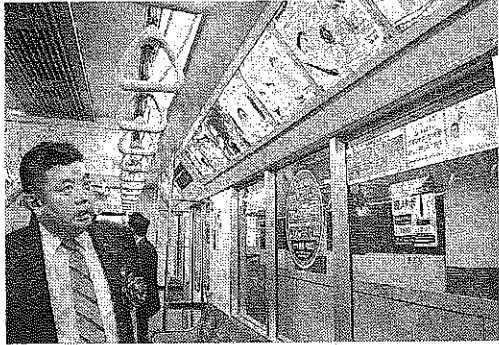
村井委員長は「幼児教育の理解啓発という目的ですが、下を向いて地下鉄に乗るんじゃない、上を向いて乗ってほしいというのが大きな願い。全国の地下鉄にもこの取組が広がればうれしい」と夢の広がりに希望を託す。

美術館列車の運行は十六日から二十九日までの二週間。東西線のみ一日平均九往復す

東西線で「走る美術館」

地下鉄東西線の1編成7両が「走る美術館」に。札幌市内の幼稚園児464人が描いた個性豊かな絵を車内の広告スペースに飾った「地下鉄こども美術館」の開催セレモニーが15日、南郷7丁目駅ホームで行われた。16―29日の2週間、東西線で運行される。

有志で構成する非営利団体「こころの公園製作委員会」が、子どもたちの励みになり、市民にも潤いをもたらすとして企画したもので、



色とりどりの絵で埋め尽くされた車内を確認する宮坂社長

広告スペースに園児の絵 16―29日の2週間運行

「広告スペースの貸し切り費用は宮坂建設工業（本社・帯広）が負担した。車内両サイドの窓枠上部と、中つり部分の広告掲載部分の全てが、色とりどりの絵で埋め尽くされている。協賛する札幌市教育委員会の担当者によるとこのような試みは市内初で、全国でも聞いたことがないという。

セレモニーでは秋元克広札幌市長が、自身も子ども時代にプロ野球選手を夢見ていたと明かし、「夢を描いた楽しい絵が多かった。皆さんもこれから楽しいと思

い出をいっぱいつくって元気に過ごして」と呼び掛け続けた。

続いてこころの公園製作委員会の村井隆代表や、宮坂建設工業の宮坂寿文社長に、秋元市長が感謝状を贈呈。テープカットには絵を代表して園児30人も加わった。

その後の内覧で、宮坂社長は「車内が幼稚園のよう。通勤などで地下鉄を利用する大人が和める癒やしの空間になっただけでなく、絵を描いた子どもたちにとっても思い出になるのでは」と話していた。